



Press Release

オルガノ株式会社 〒136-8631 東京都江東区新砂 1-2-8
問合せ先 プラント本部 社会インフラ事業部 大田 03-5635-5180、kankyo@organo.co.jp

2026年 5月 20日

東京都実用化技術認定： 好気グラニュールを用いた連続式下水処理システム「AGSOR（アグソー）」

オルガノ株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：山田正幸）は、この度当社の好気グラニュールを用いた連続式下水処理システム「AGSOR（アグソー）」が、東京都下水道局より実用化技術として認定されましたことをお知らせいたします。

1. 背景

下水処理において活性汚泥を用いた生物処理方法は安価であるため、古くから広く一般に用いられてきました。しかしながら通常の活性汚泥法は沈殿槽での固液分離性が遅く、高い汚泥濃度を維持することが困難なため、処理水質の不安定さ、設置面積の増大などの問題がありました。そこで東京都とオルガノはこれら課題に対応するため、好気グラニュールを用いた連続式下水処理システムの実用化を目指し、共同研究を行いました。

2. 好気グラニュールとは

好気グラニュールとは、微生物同士が高密度に自己造粒し 200 μm 以上の粒径を有する粒状汚泥です。沈降速度が速く、固液分離性が非常に優れているという特長を持ち、反応槽内の生物量を高く維持できることから、処理水質の改善、設備のコンパクト化が可能となります。

3. 東京都との共同研究

2020 年から砂町水再生センター（東京都江東区）の反応槽にグラニュール汚泥を添加する実証試験を東京都と共同で実施しました。4年以上の期間にわたり実機にて連続運転を行い、下記の研究目標（概要）を安定的に達成したため、2026年3月に東京都の実用化技術として認定されました。

- (1) 1.5 倍以上の処理水量において、対照系と同等程度の処理水質
- (2) グラニュールシステムの処理に要する電力量が対照系と同等以下
- (3) 標準活性汚泥法の処理水量（HRT 6 時間以上）にて、窒素処理で高度処理並の水質



東京都砂町水再生センター
グラニュール形成槽

4. AGSOR[®]の導入効果

本システムでは、流入下水の一部を分岐し、担体や薬品注入なしで好気グラニュールの形成を行い、それを継続的に供給することで、反応槽内の汚泥濃度を向上させることにより、従来法の 1.5~2 倍の高速処理、窒素・リンに対する処理水質の向上、最終沈澱池での固液分離の安定化を実現します。また、生物反応槽、最終沈澱池の大幅なダウンサイジングが実現できることから、従来法と比較し、施設更新時のコスト削減、維持管理の低減が可能となります。

製品詳細リンク [AGSOR[®] | オルガノ株式会社](#)

以上